

山梨県支部

山梨県における産業観光の現状と地域ブランド化

第1章 地域振興を目指す産業観光とは・・・

わが国の観光立国実現に向けての『観光立国行動計画』に掲げられている「一地域一観光」の一環として、地域活性化に資する産業観光を採り上げた。しかし、産業観光は、近頃俄かに注目を集めたものであることからして、その定義は明確に定まってはいない。そこで、第1章では産業観光が叫ばれはじめた背景を探ることにした。そして、観光が団体旅行から家族や気の合った仲間等少人数旅行に移行している中で、知的好奇心を刺激する地域産業に関わる工場見学や伝統工芸関係の工房での体験等産業観光の意義を明らかにした。

第2章 山梨県下商工会における産業観光に関する取組み状況

山梨県商工会の協力を得て、県下31商工会に対し産業観光に関するアンケートを実施した。その調査結果を分析しまとめた。31商工会にアンケート調査票を送付したのであるが、4商工会は回答を寄せてくれなかった。おそらく、4商工会は当該地域にあっては観光地ではないとの判断から、回答を見送ったものと思われる。調査結果から、産業観光に対する認識がマチマチであり、観光に重きを置いているところ、逆に産業面を重視しているところに大別された。大雑把に言うと、観光地域であるところのほうが産業観光に関心があるようだ。

第3章 県内市町村（商工会地域）にみる産業観光の取組み事例

1. 南アルプス市

桃やさくらんぼ等の果樹農業が盛んな人口7万人強で合併誕生した新市である。新市名がカタカナで全国的に話題になった。観光資源が乏しい当市の現状を踏まえ、この都市名を活かした果樹農業、それを活かした特産品開発に食品製造業が関わる地域連携、交流人口を増やすクラインガルデンを産業観光のテーマにするよう提言した。

2. 都留市

当市はかつて城下町であり城跡が残っている。また、公立の大学があり若者が比較的多い都市である。そして、当市の最大の目玉と言えるリニアモーターカーの実験線がある。これらの地域資源を、ある1つの物語性で有機的に結びつけることが課題と言える。

3. 身延町

当町は、身延山久遠寺や下部温泉があり、大変観光資源には恵まれた地域である。また、

手漉き和紙や印章等地場産業を紹介する富士川ふるさと工芸館が存在する。その他にも、産業観光の拠点になる「なかとみ和紙の里」もある。これらの名所旧跡観光および産業観光の資源を一体的にPRし、周遊コースプランを提案してもらいたい。また、身延駅前の風情ある商店街を観光地型商店街にシフトする中で、地域商業も産業観光の枠組みの中に組み入れたい。

第4章 地域資源タイプ別産業観光の戦略方向性

当章では、前章における3市町の現状分析や課題を踏まえて、これからの産業観光のビジョンを示している。産業ビジョンの策定に関し、産業観光を推進している(社)日本観光協会と(財)社会経済生産性本部が著した『産業観光推進会議中間報告』を参考にした。報告書で述べられているように、既存観光資源と産業観光資源の2つの因子を用いた産業観光への取り組みの視点を活用して、地域の現状を類型化した。この類型化を基礎にして、地域が保有している資源をハード資源(産業系、土木系、都市系等)、ソフト資源(技術、景観、デザイン等)に整理し、情報・サービス資源(ハードとソフトをつなげる物語の創出)と言う切り口で統合化する枠組みを提案したのである。